馬頭町広重美術館 友の会ニュース〈第5号〉

風の色

喜多川歌麿「松葉楼粧ひ　実を通す風情」

寛政（1789―1800）後期頃

遊女が巻紙にしたためるのは、馴染みの客への誘いのことば。覗いてみれば、「一しゅ（樹）の陰、一河のなかれ（流れ）も他生の縁とやら…」と口説き文句が連綿と綴られているようです。遊女なりの「誠実」を持って、客を誘い出す文句を綴る表情には、なんともいえない艶が匂い立っています。大首絵の美人画で知られる喜多川歌麿（1753―1806）は女性の表情を描き出すことにかけては、ずば抜けた才能がありました。描き出された彼女の表情に、無意識が故の女性の「性」を見たようで、女性の私でさえどきっとさせられるものがあります。

この作品は背景が黒雲母になっていますが、同一の作品で背景が灰色となっており、画中に「松葉楼粧ひ　実を通す風情」と題名を書き入れたものがあります。つまりこの女性は、吉原角町の松葉屋半蔵が抱える遊女で当時揚代が金一両の名妓「粧ひ」なのです。彼女の髪型に注目してみると、横の髪を薄くとって鬢をつくる「燈篭鬢」であることがわかります。「燈篭鬢」は宝暦期から寛政期まで流行した形で、その名は後ろの髪が透けて見えるところからあるいは、燈篭の笠のような形であるところからきているともいわれます。「松葉楼粧ひ　実を通す風情」は歌麿の女性描写もさることながら、燈篭鬢の透け具合や毛割り（髪の生え際の彫り）といった彫りの技術の高さにも驚かされる作品です。

この作品は企画展「浮世絵の美人画展―江戸のファッション―」に出品されます。

（学芸員　津田卓子）

＊前号の解説に誤りがありました。ここに訂正を記してお詫び申し上げます。
「酒井雅楽頭の下屋敷の隣にあった明神社」→「石浜神社のもの」

「大江戸八百八町展」見学会に参加して

友の会会員　山城　千景（芳賀町）

私は、2月21日に江戸東京博物館で開催された「大江戸八百八町展」の見学会に参加し、日本初公開の絵巻物「熙代勝覧」を見ることができて大変幸せに思っています。江戸開府400年の記念行事としてドイツから里帰りして公開されていることをテレビで知り、友の会からの通知を受けて直ぐに申し込み、母と参加しました。ベルリン東洋美術館所蔵のこの絵巻物は「日本橋繁昌絵巻」といわれ、12メートルにも及ぶ絵巻には看板まで忠実に描きこまれた多数の店舗と、約1、700人もの人物が克明に描かれている貴重な作品です。

7階レストラン「ニュートーキョー旬花」での昼食風景

見学当日、展示会場の入口付近はかなり混雑していたので、絵巻物にポイントを絞り、時間をかけて見たいと思って奥へ進んで行きました。

絵巻物には、日本橋から神田今川橋までの大通りの様子が次つぎと詳細に描かれていきます。先ず高札場から始まり、日本橋を渡る武家の行列や旅人・魚河岸や立売りと、路面が見えないほど人物が描きこまれており、当時の賑わいや繁昌の様子が見事に表現されています。続いて、各町を区切る木戸と木戸の間に繰り広げられる場面には様ざまな身分や職業の人々が生き生きと描かれ、着飾った女性や喧嘩をする町人などユーモラスな姿もあり興味深く見て行きました。最後に、今川橋にたどり着くと佐野東州書の「熙代勝覧」で終わりとなりました。

また、展示物では三越の「現銀無掛直」の看板や棟瓦の実物が印象に残っています。他に現代の工芸家による広重の「名所江戸百景」の復刻画も見て参りました。

見学を終えてからは、貴重な作品を見ることができた満足感を味わうと同時に、ゆとりのある館内で月替わりの作品をじっくりと見ることが出来る馬頭町広重美術館のすばらしさを改めて感じました。そして、展示だけでなく、美術館での講演会やミュージアムトークも楽しみの一つで、私は、浮世絵に出合えて本当に良かったと思っております。

友の会見学会に参加して

友の会会員　松木　博明（茨城県）

今まで、何度か友の会主催の旅行の案内を頂いていましたが、都合がつかず参加できないでいました。しかし、今回は現地集合もあるとのことで、初めて参加させて頂きました。

私が江戸東京博物館を訪れるのは、今回が初めてのことです。近くの国技館や深川江戸資料館には幾度か来ていたのですが、江戸東京博物館は、外から眺めるだけで、なぜか入ったことはありませんでした。巨大な建物に圧倒されていたのでしょうか。ちなみにこの巨大な建物ですが、建物の形が何をイメージしているのか、館内で貰ったパンフレットには何も説明はありませんでした。（また来たときに聞いてみようと思います。）

建物の中へ足を運びますと、企画展と常設展に分かれている様子。企画展のほうは混雑しているようでしたので、とりあえずは常設展のほうから見ることにしました。

入場券を切ってもらって中に入ると、まず最初に現れるのが実物大の日本橋。この橋の右下に江戸の町屋、左下に明治の東京の建物があってなんとも不思議な感じです。実は、常設展示室には江戸ゾーンと東京ゾーンの2つがあって、その分かれ目が日本橋の真下になっているようでした。この2つのゾーンの回り方もパンフレットによると何コースかあるようでしたが、今回、運良く江戸ゾーンの途中で、常設展示品を易しく面白く解説しているガイドさんがいましたので、一緒に説明を聞きながら東京ゾーンまで見学させてもらいました。

その後も、常設特別展示品の展示解説（ガイドツアー）や各フロアの展示説明にも参加するなど、充実した見学となりました。もちろん、企画展示室の方にも行きましたが、閉館間際まで混雑に変わりはありませんでした。

一通り見学して思ったのですが、館内にいる博物館の方の現代風の服装に、展示品等との違和感を、なんとなく感じました。女性ガイドのピンクの服装や、警備の人の警備服を、町娘や岡引の格好にした方が江戸の町にしっくりくるのではないでしょうか。

まだまだ、江戸開府400年のイベントは今年いっぱい続くようです

ので、いろいろと見て回りたいと思っています。また、友の会のツアー等も時間が許せば参加したいと思いました。

高校生美術館ボランティア

美術館では、一般の方だけではなく地元・馬頭高等学校の生徒さんにもボランティアとして展示室の監視・図書の整理等を行っていただいております。

「いろんな地域からくる人がいて、すごいと思いました。ぜひ、広重美術館に来てみて下さい。」

馬頭高校2年　小森　景子(烏山町)

「語らい」と「安らぎ」の美術館

ボランティア　木村　信也(馬頭町)

美術館ボランティアの私にとって一番楽しい時間は、お客様と一緒に展示作品を充分に堪能できる時間です。お客様との語らいを通して作品への共感を分かち合えた時ほど嬉しいことはありません。少々オーバーですが、私にとっては至福のひとときです。

そして、お客様の適度に抑制を利かせた穏やかな語り口や、ご同伴の方やお仲間との和やかな対話や会話に耳を傾けておりますと、最近特に「語らいの美術館」としての手応えを、実感できるようになってきました。

いっぽう、ボランティアの仕事を考えてみますと、その中味は案外広い範囲にわたっていることも分かってきました。「監視業務」とか「補助業務」とか、様ざまな内容がありますがそちらへの目配り気配りも大切です。特に体のご不自由な方、ご高齢の方への応対などは手を抜けません。お客様に「安らぎの美術館」としての手ごたえを充分実感していただける美術館でありたいと願っておる昨今であります。

何はともあれ、お客様との心のふれあいが最も大事な気がいたします。もちろん作品の解説も大切ですが、むしろ作品を仲立ちとして、作品に対するお互いの見方や考え方を語り合ったうえで、共感を分かち合えたら最高だと思っております。

展示作品のメインが浮世絵で占められる広重美術館は、最終的には、館周辺の風致景観にマッチした『語らい』と『安らぎ』の美術館であって欲しいと願っております。

今後もボランティアの一員として、その立場と役割を充分認識し、自らもすぐれた数々の作品に親しみ、そしてその楽しさをお客様と共有することを心掛け、美術館とお客様の間にさらに良い関係を築いていけるよう努力したいと考えております。

来館者アンケートから

来館されたお客様から寄せられた感想をご紹介します。

◆他の浮世絵師と画風を比べてみるとやっぱり広重はすごいんだなァと思いました。構図がすごいし他の絵師も個性がでていたし、(でも私はやっぱり広重の名所絵が一番好きです。)たのしかったです。(20代女性「広重・国貞・国芳展」)

◆吉田博の「瀬戸内海集」の帆船がとてもよかった。心があらわれるようでした。またきたいです。(10代女性「青木コレクション名品展」)

◆初代の広重、落ちついて静かで、やはり良いです。(40代女性「三人の広重展」)

友の会入会案内

美術館友の会員の有効期間は、加入日から翌年の加入月の前月末日までの一年間です。

皆様のご入会・更新を、お待ちしております。

会　費

●一般会員

一般／年額　3、000円

学生／年額　1、500円

●特別会員

個人／年額　10、000円

法人／年額　一口　30、000円

特　典

●特別展・企画展が無料で何回でも観覧できます(特別会員は同伴2名まで可)。

●友の会主催の見学会・講演会・講座等に参加できます(特別会員は同伴2名まで可)。

●会報・展覧会スケジュール等の案内をお送りします。

●会員証でミュージアムショップの商品割引が受けられます(除外品あり)。

●広重ほか美術館所蔵作品入り名刺の斡旋をします。

※このほか特別会員の個人には図録の進呈、法人には特別展招待状(5枚)送付などの特典があります。

※同封の振込用紙をご利用下さい。

今後の展覧会予定

企画展「浮世絵の美人画展―江戸のファッション―」

●会期
平成15年4月17日(木)～5月25日(日)

浮世絵の主要テーマである美人画は、ほとんどの絵師が描いています。その中で最も活気のあった明和から幕末までの鈴木春信や喜多川歌麿、歌川国貞らが描いた美人画を紹介することで時代と共に移り変わっていく江戸の女性のファッションをご覧いただきます。

●ミュージアムトーク（展示解説）
当館学芸員　4月19日(土)・5月3日(土・祝)・17日(土)

企画展「河鍋暁斎記念美術館所蔵―明治の天才絵師　河鍋暁斎展―」

●会期
平成15年5月29日(木)～6月29日(日)

河鍋暁斎（1831～89）は、幕末から明治に活躍した絵師として国内はもとよりその名声は海外にも知られています。本展覧会では暁斎の肉筆画、錦絵、版本等を展示し、日本の美術界で天才といわれた暁斎の画業を紹介します。

●記念講演会「河鍋暁斎の画業」（仮称）河鍋暁斎記念美術館館長　河鍋楠美氏　6月7日（土）

●ミュージアムトーク（展示解説）
当館学芸員　5月31日(土)・6月21日(土)

企画展「江戸の子ども浮世絵展」

●会期
平成15年7月3日(木)～8月3日(日)

本展覧会では浮世絵を通して江戸～明治期のこどもたちの世界をご紹介いたします。夏休みにご家族でどうぞ。

●ミュージアムトーク（展示解説）
当館学芸員　7月5日(土)・19日(土)・26日(土)

企画展「大江戸夏の風物展」

●会期
平成15年8月7日(木)～9月7日(日)

江戸では一年中様々な行事が行われていましたが、特に夏場は両国界隈の隅田川川開き、勧進相撲、両国花火など多彩でした。江戸の夏の行楽にスポットを当て庶民が楽しんだ行事を紹介します。

●ミュージアムトーク（展示解説）
当館学芸員　8月9日(土)・16日(土)・30日(土)

開館三周年記念特別展「千葉市美術館所蔵　浮世絵名品展」

●会期
前期／平成15年9月12日(金)～10月19日(日)
後期／平成15年10月23日(木)～11月24日(月)

千葉市美術館の所蔵する浮世絵は肉筆画、版画、版本などを時代順に概観できるよう幅広く収集されており、我が国でも有数のコレクションを形成しています。本展覧会では江戸初期の浮世絵創成期から天明・寛政時代の黄金期を経て明治時代の終焉に至るまでの浮世絵史を概観し、各時代に活躍した絵師を紹介します。

●記念講演会「千葉市美術館所蔵の浮世絵」（仮称）（千葉市美術館館長小林忠氏）　9月27日(土)

●記念講演会「肉筆画と版画」
当館学芸員　市川信也　11月3日(土)

●ミュージアムトーク（展示解説）
当館学芸員　前期9月13日(土)・10月11日(土)、後期10月25日(土)・11月15日(土)

企画展●浮世絵の美人画展 江戸のファッション
4月17日(木)～5月25日(日)
ミュージアムトーク＝4月19日(土)・5月3日(土・祝)・5月17日(土)
【春季講座】浮世絵入門　当館学芸員　市川信也
5月10日(土)「浮世絵の歴史 前編」　5月24日(土)「浮世絵の歴史 後編」

企画展　河鍋暁斎記念美術館所蔵　明治の天才絵師　河鍋暁斎展
5月29日(木)～6月29日(日)
ミュージアムトーク＝5月31日(土)・6月21日(土)　当館学芸員
記念講演会＝6月7日(土)「河鍋暁斎の画業」
河鍋暁斎記念美術館館長　河鍋楠美氏

企画展　江戸の子ども浮世絵展
7月3日(木)～8月3日(日)
ミュージアムトーク＝7月5日(土)・7月19日(土)・7月26日(土)

企画展　大江戸夏の風物展
8月7日(木)～9月7日(日)
ミュージアムトーク＝8月9日(土)・8月16日(土)・8月30日(土)

開館三周年記念特別展●千葉市美術館所蔵　浮世絵名品展
前期＝9月12日(金)～10月19日(日)　後期＝10月23日(木)～11月24日(月)
ミュージアムトーク＝9月13日(土)・10月11日(土)・10月25日(土)
11月15日(土)
記念講演会＝9月27日(土)「千葉市美術館所蔵の浮世絵」(仮題)
千葉市美術館館長　小林　忠氏
記念講演会＝11月3日(月・祝)
「肉筆画と版画」
当館学芸員　市川信也

歌麿の名作「納涼美人図」(肉筆画)出品!
■特別展観覧料は別途料金になります。お問い合わせ下さい。

企画展●江戸から東京へ展 浮世絵は明治まで生きていた
11月29日(土)～12月23日(火)
ミュージアムトーク＝11月29日(土)・12月6日(土)・12月20日(土)

企画展●東海道に見る旅の風景展
平成16年1月4日(日)～2月1日(日)
ミュージアムトーク＝1月10日(土)・1月17日(土)・1月24日(土)

企画展●青木コレクション 国芳とその弟子たち展
2月5日(木)～3月7日(日)
ミュージアムトーク＝2月7日(土)・2月14日(土)・2月28日(土)

企画展●浮世絵ってなんだ?展
3月11日(木)～4月11日(日)
ミュージアムトーク＝3月13日(土)・4月3日(土)
講演会＝3月20日(土)「浮世絵入門」　当館学芸員　市川信也

馬頭町広重美術館友の会ニュース　第5号
平成15年3月31日発行／編集発行／馬頭町広重美術館友の会
〒324-0613 栃木県那須郡馬頭町馬頭116-9
TEL 0287-92-1199　FAX 0287-92-7177
http://www.hiroshige.bato.tochigi.jp/